

2013 年原子力学会秋の大会 企画セッション 『シグマ』特別専門委員会活動報告と核データの新規ニーズ開拓

2013 年 9 月 3 日 (火) 13:00~14:30 八戸工業大学 C 会場

(1) 平成 23, 24 年度「シグマ」特別専門委員会活動報告

九州大学大学院総合理工学研究院

渡辺 幸信

watanabe@aees.kyushu-u.ac.jp

「シグマ」特別専門委員会は 1963 年に設立され、今年で 50 周年を迎えた。現在、本委員会は核データ部会と協同して活動を行っており、他学協会の意見も取り入れながら、①内外の学協会等と連携した我が国の核データ活動方針の検討、②新しい核データ要求の取り纏め、③その他の核データ関連活動を柱にした委員会活動を継続して行っている。この度の原子力学会 2013 年秋の大会（八戸工大）にて、「総合講演・報告セッション」を企画し、過去 2 年間（平成 23, 24 年度）の委員会活動の経緯とその成果を報告した。また、我が国における核データ研究戦略を検討・議論するための材料を提供する目的で、本委員会に新規設置された核データ将来検討ワーキンググループの活動報告、および 2 件の核データ新規ニーズ開拓に関連した講演（廃止措置分野と先端的放射線治療分野）を依頼した。以下、過去 2 年間の本委員会活動の経緯とその成果を要約して報告する。

1. 本委員会活動の概要

平成 23, 24 年度は 32 名の委員（内訳：大学 14 名、国研 13 名、産業界 5 名）で構成され、年 1 回の全体委員会開催とメール審議で委員会運営を行った。H23 年度末に 2 つのワーキンググループ（核データ将来検討 WG と教科書作成 WG）の設置が承認され、本委員会メンバー以外の専門家を含めたメンバーで両 WG は構成され、それぞれの活動を

行ってきた。核データ将来検討WG（リーダー：千葉氏（東工大））には、ポスト3.11における原子力の基礎・基盤を支える核データの位置づけや核データ研究の将来像、学生・若手に魅力的な研究テーマの発掘・発信、等の課題を検討して頂いた。一方、教科書作成WG（リーダー：深堀氏（原子力機構））では、人材育成に向けた知の継承・体系化のために、核データ測定、原子核反応・構造理論、核データ評価手法、核データの利用方法等を総合的に扱う「核データ学」の専門書（教科書）の作成について継続して検討を進めている。

2. 学会での活動成果公表状況

下記のとおり、核データ部会や炉物理部会合同で総合講演・報告および企画セッションを行った。

- 1) 原子力学会 2011 年秋の大会： 2011 年（平成 23 年）9 月 22 日（木）
核データ部会・シグマ特別専門委員会合同企画セッション
「福島第一原子力発電所事故と核データの将来：原点にもどって」
- 2) 原子力学会 2012 年春の大会： 2012 年（平成 24 年）3 月 17 日（木）
総合講演・報告
「シグマ特別専門委員会活動報告と核データの展望」
- 3) 原子力学会 2012 年秋の大会： 2012 年（平成 24 年）9 月 28 日（日）
炉物理・シグマ特別専門委員会・核データ部会合同企画セッション
「炉物理・核データの将来に向けて」
- 4) 原子力学会 2013 年春の大会： 2013 年（平成 25 年）平成 3 月 27 日（水）
シグマ特別専門委員会・核データ部会合同企画セッション
「シグマ委員会設立 50 周年をむかえて」

3. 核データニュースの刊行

核データ部会と協力して 2 年間で合計 6 回の核データニュース（99 号～104 号）を刊行した。そのうち、104 号はシグマ委員会 50 周年記念特別号である。

4. シグマ委員会 50 周年記念行事

シグマ委員会 50 周年を記念した関連行事を核データ部会および原子力機構・JENDL 委員会との共催で行った。上述の通り、平成 25 年学会春の大会（近大）のシグマ特別専門委員会・核データ部会合同企画セッション「シグマ委員会設立 50 周年をむかえて」を実施し、同日に KKR ホテル大阪にて記念懇親会を開催した。これら企画セッションおよび懇親会の様子は、核データニュース 105 号に既に報告しているので、そちらを参考にしたい。